

震災にともなう原発事故への対処について

東北のみなさんにはたいへんな困難と悲しみ、どうか励ましあい、気持ちをしっかり持って頑張ってもらいたいと思います。今週末までには輸送路も確保されて生活物資も届けられるようになるのではと思います。生協でも何ができるかを検討し、組合員・生産者に支援の協力をお願いする予定にしております。

さて同時に、震災に伴う福島の子力発電所が深刻な状態が続いています。

現場で身を危険に晒しながら必死で(おそらく不眠不休で)沈静化作業をされている方々には本当に大変なものと察します。

テレビで見るだけで何もできない状態ですが、おそらく現場がいちばん危険な困難に立ち向かっていることと思います。原発の是非はともかく、何とか沈静化に向かってくれるよう祈るばかりです。

私たちの「便利な生活」をまかなうために原子力発電所があり、周辺住民や作業員を危険にさらしていることの罪悪感も感じざるを得ません。「輪番停電」の中で、生活のあり方について心底考えなければならぬのではないのでしょうか。

「原発」は、私たちの便利な生活と引きかえに、手に負えない危険と一体となっていることを本当に実感する事態となっています。

万一に備えて留意点について報告しておきます。

被曝を避けるのには遠くへ「避難」する、子供たちは遠くの親戚に預ける等が考えられますが、現実的に困難な場合がありますので、**ニュースや風向き、天候に注意して**下記の対策をとって下さい。

Q. 原発の災害で放射性物質が漏れて拡散した場合どうなるの? どういう対策をとったらいいの?

●放射性雲

「放射性物質」が放出された場合、固体粒子で直接落下もしますが、気体状になって大気とともに雲のように流れます。これを「**放射性プルーム**」(放射性雲)といいます。

この気体状の放射性物質は地球上の広範囲に

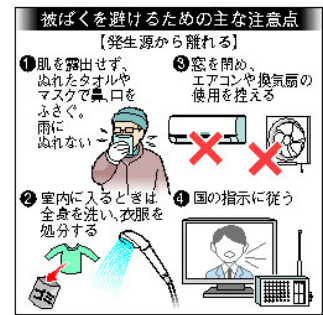
汚染を拡散させるので注意が必要です。

放射性雲には原発でウランの核分裂生成物の「**放射性希ガス**」と「**放射性ヨウ素**」が含まれています。

「希ガス」にはウラン核分裂生成物としてクリ

プトン85とキセノン133の放射性同位体元素があります。

「放射性ヨウ素」はヨウ素131が問題になります。



●雨に注意

気体の雲状になって上空を漂う放射性物質は、風向きに従って移動しながら拡散してゆきます。雨になると水滴に付着して高い濃度で落下してきます。

落下してきた放射性物質が皮膚や衣類についた場合、一粒子でも放射線(β 線・ γ 線)を出しながら崩壊してゆきますので細胞が被曝して遺伝子を傷つけ、がんのリスクが高まります。

特に、女性、子供は被曝を優先的に回避して下さい。女児は生まれた時点ですでに卵細胞を持っていますので卵細胞を守ることに心がけて下さい。

【被曝回避の留意点】

①外に出ない/屋内退避

まずは極力「外に出ない」ことです。屋内退避の場合、家の窓を閉め、エアコンや換気扇を止めて外気を取り込まないようにして下さい。

外では肌を露出することのないよう注意して下さい。外から帰った場合は、髪や衣類をよくはたいて放射性物質を除去してから家に入って下さい。

②吸入・経口摂取での体内被曝を避ける

濡れタオルやマスクで口や鼻を覆って下さい。

気体の状態の放射性物質は呼吸器系に取り込み体内被曝する危険性があります。

放射性物質が降り付着している可能性がある食材を避けます。生協からお届けする商品については、対象地域の商品を供給中止とする場合がありますのでご了解下さい(後述)。

食物からの経口摂取による体内被曝が問題になります。経口摂取した場合、消化管から排泄されるまでの間に放射線を出し続けますので継続的に「体内被曝」します。

なお、幼児が屋外で使用した衣類などをしゃぶる場合がありますので経口摂取に注意して下さい。

③ヨウ素を含む食品を摂取する

放射性物質を万一吸入・経口摂取しても放射性ヨウ素を取り込まないよう、ヨウ素の多い食材(昆布・ワカメ類・味噌汁など)を食べておきましょう。

自宅での昆布・わかめの準備をおすすめします。昆布をハサミで切ってしゃぶれるように。わかめの味噌汁等々。

Q. どうして放射性ヨウ素に注意するの？

今回原発から放出されている放射性物質の中に「放射性ヨウ素」があります。

「ヨウ素」は甲状腺ホルモンの原料として内分泌機能を持った生物(動植物)にとって必須要素ですから、生物は積極的に取り入れようとします。

地球上の長い生命史の中で、生物は最近人工的にできた放射性物質は触れる経験がなかったことから「毒物」として認識して排除する身体のしくみがありません。

したがって、わたしたち生物は「ヨウ素」と人工の「放射性ヨウ素」を区別できずに身体に取り込んでしまいます。

排除されずに取り込まれた放射性ヨウ素は甲状腺に集まり、放射線を出し続け体内被曝し続けることとなります。その結果「甲状腺がん」が多発するというのはチェルノブイリ周辺の住民の結果です。

「ヨウ素」は生物が積極的に甲状腺に取り込むことから、他の放射性物質よりも注意が必要となります。

Q. 原発被害に合った時の商品供給は？

●短期的問題・・・野菜・牛乳

□野菜等、放射性物質の落下・付着の可能性がある産地の野菜については供給を慎重に判断させて頂く予定です。

□放射性ヨウ素の汚染・吸収経路は「牧草の汚染→牛→牛乳→人」の移行が主要な問題になります

。牛乳中の放射性濃度は、牧草に降りかかった3日後にピークに達することがわかっています。

牧草から除去される有効半減期は約5日とされていますので、その数倍の日数をとって対象地域の牛乳については供給を判断する予定です。

現在のところ福島県の酪王牛乳、同川俣町の山木屋牧場のノンホモ牛乳が検査対象となっています。

●中長期的問題

□土壌、水汚染

高濃度に汚染された地域は、土壌や水が汚染されますので、根圏から放射性物質が吸収されることから、作物だけでなく土壌や水質検査の結果も見ながら供給を検討します。

□樹木の汚染

放射性物質が広範囲に落下した場合、樹木も汚染・吸収しますので、原木栽培するしいたけや木材チップを使う菌床などから菌茸類に移行することから、木材の調達先もチェックします。

Q. 生協の配送はどうなるの？

原発事故災害による放射性物質の拡散下でも供給は継続する方針です。

屋外の放射性物質の汚染下での作業となるので、供給職員は次のような防護をして配送作業を行うことになっています。

①身体を防護して配送

まず、帽子・首巻き・長袖服・手袋等で肌への付着を防ぎ、よく衣類をはたくようにします。高濃度で汚染された場合は衣類をその都度廃棄する予定です。

念のため、今ガイガーカウンターを手配しています。

供給中に降雨がある場合は、高濃度汚染されるのを避けるために供給を一次中断することがあります。

②特別なマスクを着用

吸入防止のために供給担当は供給時に放射性物質のフィルターを持つ「2307N95」というマスクを用意しています。小型のガスマスクのような形をしていますので、驚かないで下さい。

③おしゃぶり昆布等の支給

供給担当には事前に昆布(おしゃぶり昆布・とろろ昆布)を支給してヨウ素を補給しておきます。

放射性ヨウ素を吸入しても「これ以上のヨウ素の摂取は不要」という身体の状態にしておき身体が積極的に吸収しないようにします。

(2011.3.15)